

新潟県小学校教育研究会

会 報

全  
会  
員  
配  
布

編集発行：新潟県小学校教育研究会事務局  
〒950-0908 新潟市中央区幸西3-3-1(新潟会館2階)  
電 話 新潟 (025) 290-2231  
F A X 新潟 (025) 245-6060  
<http://www.niigata-inet.or.jp/k-shoken/>  
E-mail k-shoken@niigata-inet.or.jp  
印 刷：株 第 一 印 刷 所  
電 話 新潟 (025) 285-7161



## 大きな宿題

### —ピンチをチャンスに—

新潟県小学校教育研究会

会 長 村 山 信 一

中越大震災の復興の最中、再び中越沖地震に見舞われました。柏崎・刈羽地域を中心に甚大な被害が発生し、被災地の学校では、子供の心のケア対策、避難所対応などに懸命に取り組んでおられます。先生方の献身的な姿に接し、一日も早い復興を願わずにはおられません。被災された会員の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

今、県小学校教育研究会は、二つの大きな宿題を背負っています。

一つは、会員の所属意識をどう高めるかということです。県小学校教育研究会は、新潟県の小学校教員8,367人で構成し、一人一人の会費によって運営しています。15の教科・領域等の研究部があり、教育実践を通じた研究推進を大切にしています。そして、研究指定校の研究大会が毎年計画的に開催されています。

このことが案外知られていません。その原因の一つは、活動情報の不足にあります。この会報も年一回の発行に過ぎません。活動内容を集約した研究集録も有償であり、個人購読数は近年増加しているものの、会員数の5割弱に過ぎません。活動経過の様子を知ることができ、研究成果や仲間の活動情報を共有できる改善策を講じ、「私たちの研究会」意識を高めていかなければなりません。

二つ目は、「テストが変われば授業が変わる」をスローガンとしたユニット式テストの改善・定着を図ることです。このテストは、考える力（身に付けた知識や技能を活用できる力）に関する実態調査を実施し、その後の学習指導の改善を目的としています。この取組は、4月に実施された全国学力・学習状況調査を先取するものであり、7月12日付新潟日報で大きく県民に紹介されるなど、今注目されています。

しかし、新事業の定着には、時間がかかります。また、現在のやり方は学校の負担が重く、テスト用紙の印刷配布など実施上の負担軽減を図るには、財政的な基盤を安定させる必要があります。

本年度、この大きな宿題に対し、新たに「事業検討委員会」を立ち上げました。組織や事業活動を見直し、会員一人一人の役に立つ会となるよう検討を重ねています。年度内に改善案が出され、新しい方向が生まれます。ピンチの状況にありますが、組織が飛躍するチャンスであります。会員のご理解と忌憚のない声を期待しています。